

【憲法第九条 戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認】

- 1 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、國權の發動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、國際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- 2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。國の交戦権は、これを認めない。

【もう一度と戦はしない（第九条）】

私たちには、人間らしい生き方を尊ぶというまことの世界をまごころから願っている

人間らしく生きるための決まりを大切にする
おだやかな世界をまっすぐに願っている

だから私たちは
どんなもめごとが起こつても
これまでのように、軍隊や武器の力で
かたづけてしまうやり方は選ばない

殺したり殺されたりするのは
人間らしい生き方だとは考えられないからだ
どんな国も自分を守るために
軍隊を持つことができる

けれども私たちは
人間としての勇気をふるいおこして
この国がつづくかぎり
その立場を捨てることにした

どんなもめごとも
筋道をたどってよく考えて
ことばの力をつくせば
かならずしずまと信じるからである

よく考えぬかれたことばこそ
私たちのほんとうの力なのだ

そのため、私たちは戦をする力を
持たないことにする

また、国は戦うことができるという立場も
みとめないことにした

（井上ひさし『子どもにつたえる日本国憲法』より）

語注　・基調：作品・思想・言動などの底を流れる基本的な傾向。

・希求：願い求める事。こい願うこと。

・威嚇：威力を相手に示しておどすこと。おどかし。

『設問』

この文章は、「憲法第九条」の条文とそれをわかりやすく書き換えた文章です。このふたつを参考に後の語群の語句をすべて用いて、君が考える憲法第九条がつくられた理由を一〇〇字程度で述べなさい（ただし、指定された語句はどういう順序で用いてもかまわないものとする）。

・人間らしい生き方　・国際平和　・軍隊や武器　・話し合い　・解決　・放棄

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

「こ」までのお話

自分の子どもを失った母狐が、村はずれの電話ボックスで、離ればなれに暮らしている母親に電話を掛ける幼い子どもを見て、亡くしてしまった自分の子と重ね合わせて、愛情豊かな目で幼い子を見つめることで、心にポツッカリ空いた大きな穴を埋めている。そんなとき、電話ボックスがとりぱすされてしまうことに…。

でんわボックスのあかりがつくころになると
きつねはきまつてやまとおりて、おとこのこをまちました。
「かあさん、きょう、おじいちゃんとえきにいつたんだよ」
「まあ、よかつたわね……」
「それから、アイスクリームたべたよ。
おじいちゃんのぶんまでぜーんぶ」
「まあ、おなかをこわさなかつた?」
「まあ、よかつたわね……」
「かあさん、アイスクリームたべたよ。
おとこのこはおじいさんとふたりぐらし。
おかあさんは、とおくのまちで
にゅういんしているらしいのです。
「かあさん、いつかうみにいこうね。それまでは、でんわで
いいんだ。ぼく、でんわでもうれしいんだもん」
「そうよ。かあさんもうれしいわ……」
「かあさんつて、ぼくらがうれしいと、
いつもうれしいっていうんだね」
「ええ、そうよ、そうよ」
きつねは、なんどもうなずきました。
やがて、やまとつめたいかぜがふきはじめました。
あるばん、いつものように、ふもとおりてきたきつねは
どきつとしました。
でんわボックスに、あかりがついていないのです。
すると、むこうからくるまがやつてきました。
「なんだ、このでんわつかえないのか。
ふるいからとりはずすんだってさ」
「とりはずすですって」
きつねがびっくりしていると、むこうからぱたぱたと
ちいさいあしおとがきこえてきました。
「きつとあのこだわ。どうしよう……。でんわがつかえない
とわかつたら、どんなにがっかりするかしら」
きつねは、おろおろとつぶやきました。
「かわいそうに、せめてここに、もうひとつでんわボックス
があればね……。ああ、わたしが、でんわボックスのかわ
りになれたらしいのに……」
と、くやしそうに、あしをだんだんとふみならした
そのときです。

『設問』

問一 この文章から読み取れるきつねの性格を三十五字以内で簡潔に書きなさい。

問二 線部1 「きつねは、なんどもうなずきました」とあります、「このときのきつねの気持ちを三十字程度で具体的に書きなさい。

問三 線部2 「きつねは、どきどきしながらこたえました」とあります、「このときのきつねの気持ちを三十字程度で具体的に書きなさい。

問四 線部3 「きつねがおもわずちようしにのると」とありますが、「このときのきつねの気持ちを三十字程度で具体的に書きなさい。

問五 線部4 「ヒュウルルーッ」とつぜん、つめたいかぜがふきました」とあります、「この表現は、きつねのどのような気持ちを表していますか。三十字程度で具体的に説明しなさい。

問六 線部5 「今までできえていたでんわボックスのあかりがふるえながら、ゆっくりともりはじめた」とあります、「でんわボックスはどうな気持でこうしたのですか。三十字程度で具体的に説明しなさい。

※すべての問の制限字数には句読点・符号を含むものとする。

「あつ!」

きつねはさけびました。
きつねは、しゃんとうしろあしでたちあがつて、
いつのまにか、でんわボックスにかわっていたのです。
「あれつ、でんわボックスがふたつもある」
おとこのこはびっくりしたようでしたが、
まよわづきつねのむねのなかにとびこみました。
じゅわきをもつコスマスのようなてのひらから、
あたたかさがつたわってきます。
「もしもし、かあさん!」
「ふわんとあまいにおいがしました」
「かあさん、きこえる?」
「は、はい、きこえるわ……」
きつねは、どきどきしながらこたえました。
「かあさん、あのね……」
「はいはい、おじいちゃんとえきにいつたんでしよう?」
「ううん、ちがうよ」
「わかつた、アイスクリームたべたのね。おいしかった?」
それよりかあさんは、ぼうやといつしょに
きのみのおだんごたべたいなあ」
きつねがおもわずちようしにのると、
おとこのこはわらいだしました。
「ちがうつたら。もうすぐぼくたち、かあさんのいる
まちにひっこすんだよ。だから、もうでんわを
しなくてもいいんだ。だつて、まいにちかあさんに
あえるんだもん。ああ、はやくあいたいなあ」
きつねはふいに、あたまたがくらくらしました。
もう、おとこのこにあえなくなるではありませんか。
きがつくと、きつねはゆめからさめたようには
ほんやりすわつていました。
むねのなかには、まだ、おとこのこのぬくもりが
ほつぺのあまいにおいものこつてています。
ほつぺのあまいにおいものこつてています。

ヒュウルルーッ」とつぜん、つめたいかぜがふきました。
きつねはいそいで、でんわボックスにはいました。
だれかにだかれているような、
すると、いままできていたでんわボックスのあかりが、
ふるえながら、ゆっくりともりはじめたのです。
「あら……」
きつねは、ふと、あたたかいきもちになつたのです。
きつねはいそいで、でんわボックスにはいました。
だれかにだかれているような、
やさしいきもちになつたのです。
「よかつたわ、あのこがおかあさんにおえて、
わたしも、あのこのおかげで
ぼうやをおもいだすことができたもの」

(戸田和代『きつねのでんわボックス』より)